

椰子の実

本調子

中	○	尺	尺	中	上	四	中	上	工	合	○	上	○	四	○	○	合	な
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

も	し	ら	ぬ	と	お	き	し	ま	よ	り	な					
四	中	上	○	合	○	○	合	上	尺	中	○	尺	上	合	四	○

が	れ	よ	る	や	し	の	み	ひ	と	っ	ふ				
上	中	尺	○	中	四	合	○	四	中	上	上	四	○	工	○

る	さ	と	の	き	し	を	は	な	れ	て	な	れ			
工	中	上	四	中	工	中	四	○	中	四	上	○	○	中	尺

は	そ	も	な	み	に	い	く	っ	き							
○	尺	中	上	四	中	上	工	合	○	上	○	四	○	○		

一、

名も知らぬ 遠き島より
流れ寄る 椰子の実一つ

故郷の岸を 離れて
汝(なれ)はそも 波に幾月(いくつ
き)

三、

実をとりて 胸にあつれば
新(あらた)なり 流離(りゅうり)の
憂(うれい)

海の日 沈むを見れば
激(たぎ)り落つ 異郷の涙

思いやる 八重の汐々(しおじお)
いずれの日にか 国に帰らん

二、

旧(もと)の木は 生いや茂れる
枝はなお 影をやなせる

われもまた 渚(なぎさ)を枕
孤身(ひとりみ)の 浮寝(うきね)の
旅ぞ